

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会  
滋賀県開催準備委員会  
第5回全国障害者スポーツ大会専門委員会 議事録（概要）

1 日時

平成30年(2018年)7月13日(金) 15:00～17:30

2 場所

滋賀県庁東館7階大会議室

3 出席委員（五十音順、敬称略）

足立 勲、伊勢坊 美喜、小倉 繁昌、小田 隆司、小野 ゆかり、川並 正幸、  
菊井 吉之蒸、小島 輝彦、近藤 寛子、高木 正二郎、中島 秀夫、  
中西 久美子、永浜 明子、中道 莉央、西山 克哉、  
丸山 英明（代理：橋本 隆也）

（委員総数19名うち3名欠席）

※事務局：高木事務局次長他5名

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

(1) 説明・報告事項

※事務局から、公益財団法人日本スポーツ協会 国民体育大会委員会（平成30年6月14日）における決定事項について報告。  
※全国障害者スポーツ大会の略称を「障スポ」とすることへの意見を聴取。

【質疑】

（委員）

これまでは「全スポ」と呼んでいたが、今後、どのような整理をしていくのか。「障スポ」という略称だが、わざわざ障害者の「障」を入れてよいのかという思いもある。

（事務局）

日本障がい者スポーツ協会は全国障害者スポーツ大会の略称を定められておらず、開催県に一任されている。これまで使用してきた「全ス

ポ」も候補ではあるが、「国スポ」「全スポ」と併記することはわかりにくいという思いもある。今年、全国障害者スポーツ大会を開催される福井県では「障スポ」を使用されているところ。

(委員)

パラマウント・チャレンジの「パラスポ」はどうか。パラマウントは山頂の意味。パラリンピックの意味もある。略称は、〇〇スポの二文字が良いだろう。

(委員)

パラスポーツという言い方はよくする。東京オリパラに向けて、パラという言葉を広めていきたい。全国障害者スポーツ大会の略称はすぐには思いつかないが、全国障害者スポーツ大会に出場した選手がパラリンピックに繋がるように、パラという言葉が入るのは良い。

(委員)

いつまでに略称は決定しないといけないのか。

(事務局)

愛称・スローガンの募集については、来週 17 日の広報・県民運動専門委員会にて審議をしていただく予定だが、8 月末に県として略称を決めた上で、愛称・スローガンの募集要項を作成したいと考えている。

(委員)

パラリンピックは身体障害者の大会のイメージがある。全国障害者スポーツ大会には知的障害・発達障害のある選手が出場する種目もあるので、「障スポ」がしっくりくるかなと思う。

(委員)

国民スポーツ大会を「国スポ」、全国障害者スポーツ大会を「全スポ」や「障スポ」と、分ける必要があるのかということも議論すべきではないか。滋賀県は、国体と全国障害者スポーツ大会を一体的に進めていくのであり、一つの愛称を「〇〇スポ」とできないのか。

(事務局)

愛称の一本化は、それぞれの大会の主催団体である日本スポーツ協会

と日本障がい者スポーツ協会とも協議すべきこと。平成 25 年に東京都が国体と全国障害者スポーツ大会を開催した時、「スポーツ祭東京」という一つの冠をつけて開催した事例はあるが、過去東京都だけである。一つのアイデアとして、本日のご意見も含めて考えていきたい。

(委員)

デフリンピックとパラリンピックの歴史があって、パラリンピックに聴覚障害者のスポーツ選手が参加できない。聴覚障害者はデフリンピックに参加する。

オリンピックと、身体障害者のパラリンピック、聴覚障害者のデフリンピック、知的障害者のスペシャルオリンピックス、すべてを含めるような名前を考えてほしい。

パラという言葉には反対する。聴覚障害者は参加できないイメージがある。また、聴覚障害者にとって、片仮名はなじみにくく、日本語を使用してほしい。

(委員)

過去に東京都だけしかしていないのであれば、東京都を超えるくらいの取組を期待している。

略称は必要ないのではないかと意見も踏まえて、事務局には検討をお願いしたい。

※事務局から、第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会第 6 回常任委員会の決定事項について報告。

**【質疑】**

特になし。

※事務局から、第 24 回全国障害者スポーツ大会の競技運営主管団体について説明。

**【質疑】**

特になし。

※事務局から、第 24 回全国障害者スポーツ大会の会場地選定の進め方について説明。

## 【質疑】

(委員)

この専門委員会での意見はもちろん、全国障害者スポーツ大会の出場選手の意見をよく聴いて会場地選定を進めてほしい。

個人的にお願いしたいことは、二点。

愛媛県では悪天候に見舞われ、競技を実施できない競技もあった。雨のことを考慮に入れて会場地選定をしてほしい。

車いす使用者の移動について、真砂土は雨が降ると移動しにくく、芝はそもそも移動しにくい。車いす使用者がいる競技については、考慮に入れた会場地選定をお願いしたい。

(委員)

今のような内容を含めた、会場地選定の基準は定められているのか？

(事務局)

既に定めている会場地市町選定基本方針をもとに、委員や関係者のご意見も聞きながら選定を進めていきたい。また、先催県から資料は入手しているので、参考にしていきたいと考えている。

(委員)

昨年の愛媛大会のソフトボール競技では、台風のため、試合ができなかった。たまたま雨天練習場があり、一試合はできたが。

金曜日は練習、土日が台風、月曜日は試合という日程になった。しかし、事前に土日に台風が来るのがわかっているのであれば、練習日に試合を繰り上げるなど、競技日程を変更することはできたのではないか。選手を一番に考えて、柔軟に対応をお願いしたい。

(委員)

先催県の資料だけでは漏れも考えられる。多くの委員の意見を事務局にお伝えいただきたい。

(委員)

天変地異、災害に際しては、選手の安全を一番に考えてほしい。避難経路等の安全対策も考えておいてほしい。

休憩（10分）

※事務局から、第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」プレ大会視察概要について説明。

**【質疑】**

（委員）

全国障害者スポーツ大会は、ホテルから競技会場、主会場から競技会場への移動は全てバス移動となる。そのため、駐車場が狭い、駐車場進入路が狭い、選手の乗降場が狭いなどの会場は選定されないようお願いしたい。

（委員）

福井県プレ大会の陸上競技、水泳大会などは精神障害者も参加できるようだが、福井の全国障害者スポーツ大会でのみ精神障害者も参加できるといふことか。

（事務局）

福井県プレ大会は陸上競技や水泳競技などで精神障害者も参加できるが、福井県障害者スポーツ大会に参加できるといふことで、全国障害者スポーツ大会には競技規則上参加できない。

（委員）

トイレの数について。多目的トイレを使用される人は、トイレに時間のかかる人が多い。トイレの数がたくさんあると安心できるので、数多く設置してほしい。

（事務局）

トイレについては、車いすバスケットボールの競技運営主管競技団体からもそのような意見は聞いている。

また、特に、ポッチャ競技については、重度障害者が参加される競技で、より一層の配慮が必要と認識している。

（委員）

福井県は、国体と全スポの競技日程を別々にされている。全競技を同時期開催することは難しいだろうが、一部競技だけでも同時開催し、滋

賀県らしい一体的な取組をお願いしたい。

(事務局)

福井県の全国障害者スポーツ大会では、車いすバスケットボールと車いすテニスを国体の会期中に開催される。福井県の取組を参考に、滋賀県の取組を考えていきたい。

(委員)

女性の視覚障害者ランナーは男性の伴走者と走ることが多い。

視覚障害者に対して、当日の競技出場までのサポートだけでなく、競技への出場が終わった後も、サポートをお願いしたい。

競技前後は男性といることが多く、ある陸上競技場ではトイレに行きたくなくてもトイレが遠かったり、トイレの中まで男性伴走者が入れず、トイレに時間がかかる。スタートやゴールの近くに仮設トイレがあると、視覚障害者にとっても安心できる。仮設トイレだと入口まで男性伴走者に付き添ってもらえる。

更衣室に関しても、更衣室前に女性スタッフが配置されていると、更衣室の中までサポートしてもらえる。

そのような視覚障害者へのサポートをお願いしたい。

(委員)

ソフト面に力を入れてほしい。ろう者は目で判断する。

いろいろな表記を頼りにして行動する。情報支援ボランティアとそれ以外のボランティアのユニフォームは色分けされているのか。

(事務局)

色分けはされている。

(委員)

専門委員から福井県大会の現地視察の希望があれば、県としての対応はいかがか。

(事務局)

想定はしていなかったが、検討をさせていただきたい。

(委員)

事務局員だけでは見られない視点があるので、専門委員の視察はお願いしたい。

(委員)

トイレの前にスタッフがほしい。知的障害や発達障害の子どもたちは、気持ちを落ち着かせるために 一時間くらいトイレにいることもある。視察の際は、そのようなことも見てきてほしい。

(事務局)

これまでの専門委員会でも、休憩スペースについての意見があったところ。福井県プレ大会の精神バレーボール会場ではそのような休憩スペースはなかったが、滋賀県でどのようなことができるか検討したい。

(委員)

おそらく競技選手はスポーツ大会に慣れており、問題ないと思われる。一般観覧で来場される障害のある人が休憩できるスペースを検討してほしい。

## (2) 審議事項

※事務局から「第 79 回国民体育大会 競技役員等編成基本方針改正(素案)」「第 79 回国民体育大会 競技役員等養成基本方針改正(素案)」「第 79 回国民体育大会 競技役員等養成基本計画改正(素案)」について説明。

### 【質疑】

(委員)

方針の中に国民体育大会開催基準要項という記載があるが、国民スポーツ大会に名称変更されたのであれば、国民スポーツ大会開催基準要項と変更になるのではないか。

(事務局)

日本スポーツ協会において、まだ要項等は変更されていないが、今後変更されると思われる。今後、国の動きをみながら対応を検討したい。

(委員)

フライングディスク、サウンドテーブルテニス、ボッチャ、車いすバスケットボール、グランドソフトボール、といった全国障害者スポーツ

大会特有種目の審判員は県内に少ない。力をいれて養成する必要がある。  
また、中央競技団体から審判員派遣がある競技もあると聞いている。  
その人数を早めに把握し、養成計画に落とし込んでいった方がよい。

(事務局)

先日、全国障害者スポーツ大会の競技運営主管団体を集めた会議を実施した。その場で愛媛県大会の競技役員編成計画を参考にお渡ししている。今後、先催県を参考にしながら、滋賀県でどのような養成をしていくのか、競技団体と一緒に考えていきたい。

(委員)

当事者が審判員やボランティアなど運営側として参加できるように検討してほしい。当事者の社会参加につながると思う。

(委員)

二つの大会を略称として使用するかどうかという先ほどの議論があったと思う。

この方針等では、それぞれの大会に略称を定めているが、この方針等を認めるということは、それぞれの大会の略称を使用して進めていくことを承認することになるのではないか。

(事務局)

二つの大会の方針を一つの方針としてまとめているのが、今回の改正案である。国体と全国障害者スポーツ大会は異なる部分があり、どこかで区別をしないと、一つの方針にまとめる時にどちらの大会のことを示しているのかわからなくなってしまう。

この方針等をもって略称の使用を認めたということではなく、文章上の整理のために略称を使用していると考えてもらいたい。

(委員)

この略称は内部で使用されるということで、広報など外部に大々的に出す時に略称を使用するかどうかの審議はまだということよろしいか。

それとも二つの略称は使用するという決定事項で進んでいるのか。

(事務局)

国体は日本スポーツ協会が、全国障害者スポーツ大会は日本障がい者スポーツ協会が主催団体になっている。そもそも別の大会を一緒に開催するという事は困難であり、名称を一体的にというご意見はごもっともと思うが、実現はかなり困難であることは伝えておきたい。

(委員)

別々の二つの大会があることはわかっている。ただ、その二つの大会の上に統一的な大会名があってもよいだろう。統一的な大会名の下に別々の正式名称があることは問題ないと考えている。しかし、あえて別々の正式名称の略称を定める必要があるのかということである。

国体と全国障害者スポーツ大会をすべて一緒に開催しようという話ではなく、統一的な大会名があれば、それぞれの大会名に略称は必要ないのではないかという話。

統一名称があり、その下に正式名称があり、その下にもう一つ略称は必要ないのではないかということ。

(事務局)

愛称は、県民の皆様が大会に親しんでもらいたいという思いからつけるもの。一方で、略称を使用するのは、正式名称では大会名が長くなるので略称をつけることが一般的。

国民スポーツ大会は、日本スポーツ協会が所持している商標で、自由に使用することができない。ただ、愛称をつけること、前回の滋賀県での国体の時であれば「びわこ国体」であるが、愛称をつければ日本スポーツ協会から県に使用許可をもらえる。国スポという名称を、県民の皆様も自由に使っていただきやすくなるということである。

一方、統一的な愛称を使用すると、「国民スポーツ大会」や「国スポ」という名前を使用する時に、一回ずつ日本スポーツ協会の使用許可を取得しないといけない。そのような事情からも、統一的な愛称をつけるのも難しい面がある。

(委員)

愛称と略称は別物ではないか。

国スポという略称はわかりやすい。全国障害者スポーツ大会の略称はまた議論されることと思うが、全体の愛称は国スポということではない。愛称はまた議論されることと思うが、今回の略称が愛称として世間になるのであれば、それを危惧している。

(委員)

福井県などはどうしているのか。

(事務局)

先催県では、こういった文章上は、国民体育大会は国体、全国障害者スポーツ大会は大会と略されている。ただ、全国障害者スポーツ大会を大会という呼び名はわかりづらいので、障スポや全スポや全障スポと呼んでいたところ。これまで文章上は、国体、大会としていたと思う。

(委員)

文章上、略すことは問題ないと思う。ただ、この略称がPRなど広報として出ていくことの審議を尽くしたとは言えない。文章上、大会名が長いので略すことは問題ないと思う。

今回の略称と広報上の愛称・略称は切り分けて考えていただきたい。

(委員)

同感です。

(委員)

国体と全国障害者スポーツ大会を一体的に取り組んでいくことが滋賀らしさにつながると考えている。ぜひ検討してほしい。

(委員)

国体と全国障害者スポーツ大会をまとめて開催するのは難しいと思う。愛称として、統一的な名前として〇〇大会があって、その次に国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会があってもよいと思う。

(委員)

一つの大会で一つの大会名を作って、その下に国スポと全国障害者スポーツ大会がある。それでは何をPRするのかよくわからない。県民へのアピール方法がわからない。

(委員)

みなさん、よろしいでしょうか。質問等があれば、また事務局に連絡をお願いします。

(以上)